

地域協働学校だより No.5

令和5年10月10日
新宿区立市谷小学校
地域協働学校運営協議会

9月22日（金）4年生は総合的な学習の時間の一環として高齢者体験がありました。社会福祉法人新宿区社会福祉協議会の職員の方4名と笹筒町高齢者総合相談センター管理者の春日井恵さんにおいでいただきました。民生委員の方々には各体験の補助をしていただきました。



高齢者の特徴を知る

はじめに春日井さんから、高齢者の特徴についてお話がありました。

若い時との身長差、白髪、しわ、膝や腰が痛くなったりする身体的な違い。豊富な知識や体験がある中で、新しいことが覚えられない、ご飯を食べたことや昨日会った友人や家族のこと、年齢などが分からなくなる脳の働きの老化。また、身体は動かなくても頭はしっかりしていたり、その逆もあったり、衰え方は様々であること。好きなもの・嫌いなもの、寂しい・楽しいなど感情があり一人一人違う、ということなどを学びました。

高齢者疑似体験：身体の不自由さを総重量4Kgの重りを付け、ゴーグル着用（視野狭窄・白内障）、ヘッドフォン着用（難聴）、腰が伸ばせないようベルト調整で体感し、「字を書く」「本を読む」「段差を歩く」「寝転ぶ、起き上がる」「ミニハードルをまたぐ」で体験しました。

車いす体験：狭い道、ジグザグ道、坂道、ぬかっている道、段差、ものを拾うなど2～3人1組で乗る人・移送する人・見守る人で交代して体験しました。

体験して：体験後の振り返りでは、「高齢者の方々は、腰が痛く身体が重く、何をすることも動きにくくて怖いという思いをもっているのだと感じた。」「もっと車いすを軽く押せると思っていたのに段差やマットの上の走行はとても重くて難しかった。」「車いすに乗ると、狭いところやジグザグや段差もとても怖かった。」「乗ってる人への声掛けは大切。物を拾うのも大変。街で高齢者の方や、車いすの方に気付けるようにしたい。」など活発な意見が多く出されました。児童の真剣な姿からとてもよい取組ができているように感じました。

